

Sustainable Report No.124

廃棄漁網から ランドセルへ

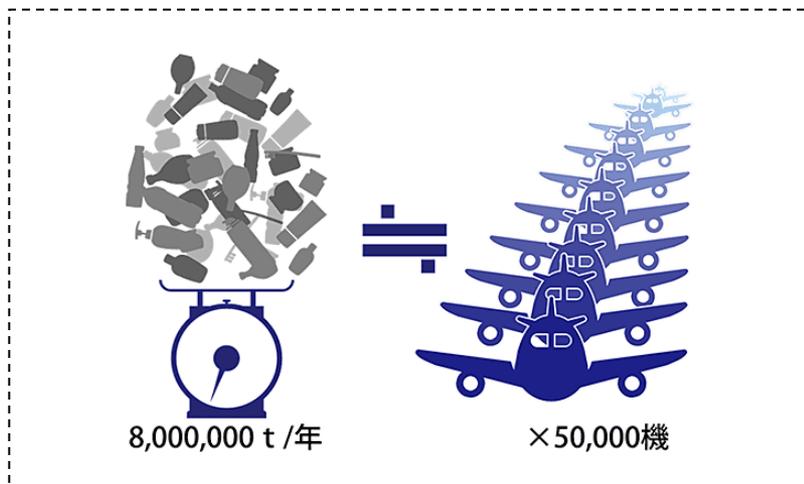


サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

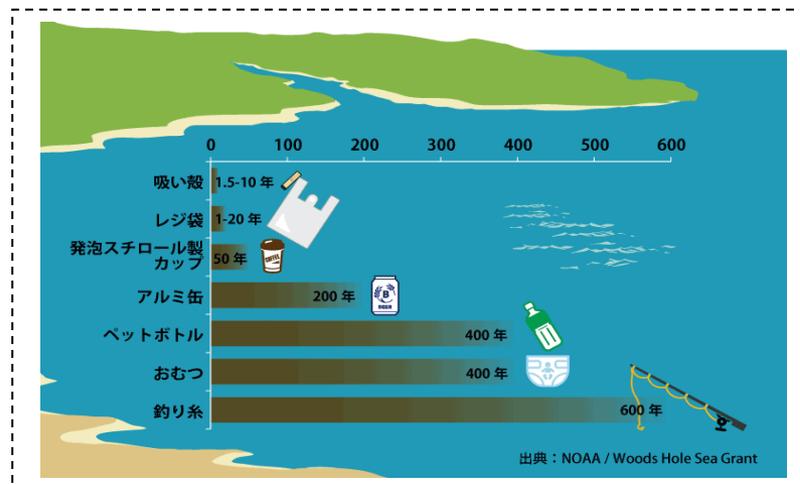
- 世界の海には1億5,000万トン以上のプラスチックが存在し、**年間800万tのプラスチックが新たに海に流れている**と言われている。
- 流し網などの漁網は主にプラスチックでできているが、意図的であるかどうかに関わらず一旦海に流出すると**自然分解されにくく600年以上も海に残り続けてしまう**。
- アザラシや海鳥、ウミガメなどに海洋中のプラスチックが誤って絡まると、ひどい場合は**生物が命を落とす**問題まで生じている。

■ 海洋プラスチックの年間推定量



出典：WWF

■ 海洋ごみが分解されて細くなる年数



出典：NOAAをもとにWWFジャパン作成

▶NEXT：廃棄された漁網からランドセルを製造

■ 実行者／解決方法／残る課題

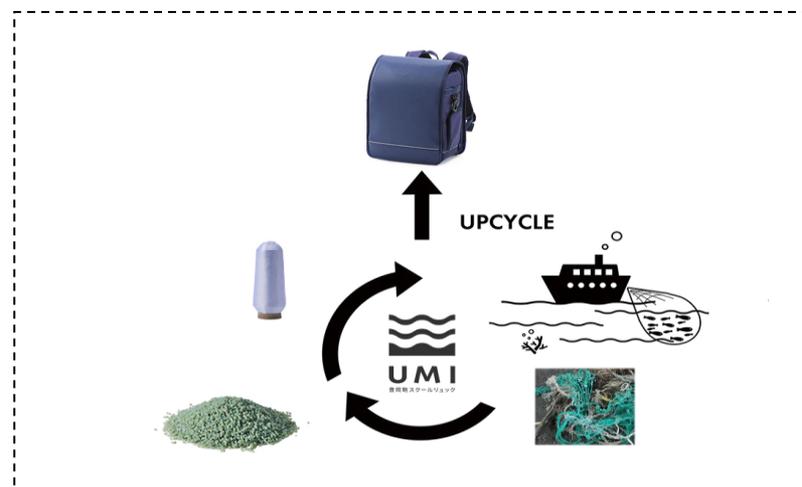
- **株式会社アートファイア**は、2006年に靴の街である兵庫県豊岡市で誕生したバッグブランドで、50余年培った製造技術を生かして「丈夫で、使いやすく、安心して長くつかえる」鞆を製造する。
- **廃棄された漁網を生地にした「豊岡鞆スクールリュックUMI」**を2022年より製造。北海道の道東エリアで回収した廃棄漁網を採取し、漁網とゴミの分別や洗浄をして生地原料となるペレットに再生。
- 商品の販売拡大に向け、漁網を効率的に回収するため**効果的な回収場所の把握が展開を左右する**。

■ ナイロン製ランドセル



出典：左右共に株式会社アートファイア

■ 廃棄漁網からランドセルを作る流れ



▶NEXT：廃棄漁網を集計できる仕組みを作り回収量を増やす

■ 弊害の原因／理想／企業施策

- **海に廃棄されて沈んだ漁網を探すのは難しく**、どこに流れ着くかわかりづらいため回収は困難である。
- 漁網が海に廃棄されない防止策に取り組んで漁具の適正管理を促しつつ、**使用済みとなった漁網を回収できるシステムを構築**することが理想である。
- 漁網メーカーは適正な処理まで責任を持ち、衛生データの活用を廃棄物回収の分野にも広げるなど、**海に流出した漁網の数や場所を集計・分析して効率よく回収できる仕組みを作る**ことが期待される。

■ 海底に沈む漁網



出典：株式会社パディ・アジア・パシフィック・ジャパン

■ 衛星データの主な活用事例

衛星データの主な活用事例	建設	衛星画像で工事の進捗(しんちよく)を把握して資材などをタイムリーに納入
	商業	商業施設に出入りする車のデータを集計、分析して客足を予測
	農業	農作物のタンパク質含有率や土壌の肥沃(ひよく)度を観測し最適な収穫日を算出
	防災	過去の衛星データをAIで学習し被災地域の地図を作製
	観光	位置情報や衛星画像と来訪者数を組み合わせ、観光施策や警備に活用
	その他	石油タンクの備蓄量を推計

出典：毎日新聞

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- WWFジャパン,「海洋プラスチック問題について」,2018年10月26日 (<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>)
- 日本財団,「【増え続ける海洋ごみ】海ごみを価値ある製品に変える。廃棄漁網由来のかばん作りから見えた問題解決の糸口」,2021年8月10日 (<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2021/60161>)
- 株式会社アートフィアー,「未来に美しい海をつなぐために」,2024年7月18日参照 (<https://www.store.artphere.com/pages/umi-sdgs>)
- 株式会社アートフィアー,「漁網再生ナイロンからできたスクールリュック【UMI】を北海道厚岸町の子供たちに寄贈」,2022年12月12日 (<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000017.000047552.html>)
- 毎日新聞,「政府、無料で民間に提供 土壌観測、最適な収穫日算出 AIに学ばせ防災地図作製」,2019年2月22日 (<https://mainichi.jp/articles/20190222/ddm/008/020/038000c>)
- NOAA,「NOAA Marine Debris Program, Ocean Conservancy, SC Sea Grant」,2024年1月18日参照 (<https://seagrants.noaa.gov/marine-debris/>)
- 株式会社パディ・アジア・パシフィック・ジャパン「AWARE（日本）の新しい取り組み「廃漁網の回収とリサイクルプロジェクト」がスタート!」,2022年11月20日 (https://blog.padi.com/jp/jp_ghostfishingnet-recycle/)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的著作権は小川電機株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。